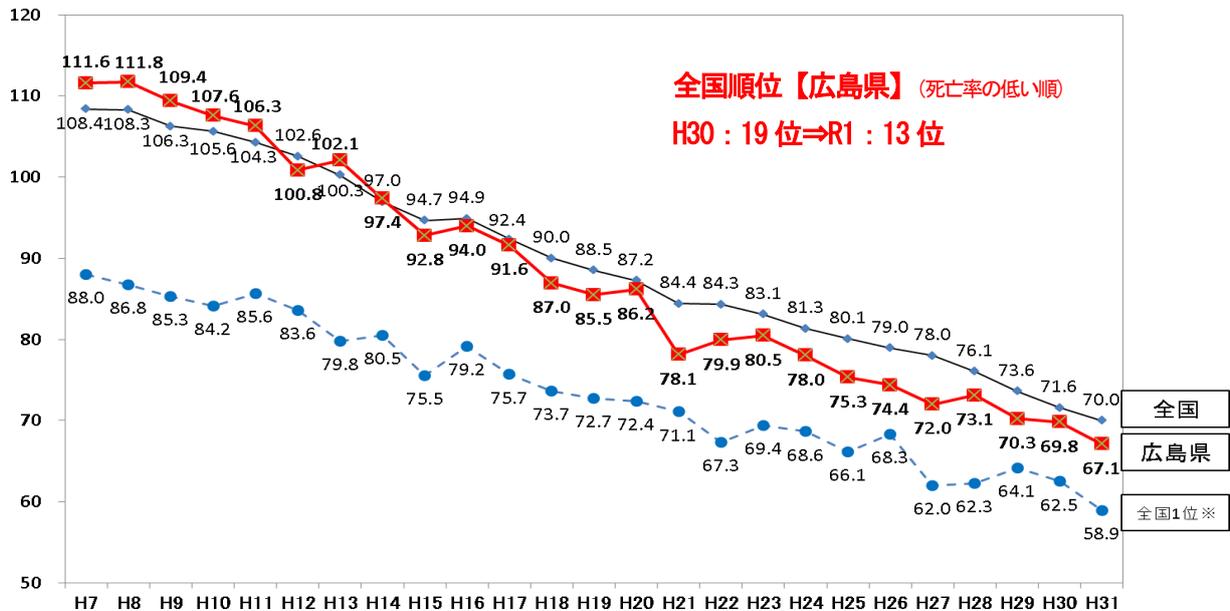


年齢調整死亡率（全体目標）の状況について

第3次計画の目標 = 75歳未満のがんによる年齢調整死亡率の減少
 「遅くとも第4次計画期間内（R6～R11）に全国1位」
 [本計画最終年 R5（2023）年時：58.0 人以下]

悪性新生物75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）年次推移



※がんの死亡率の最も低い県：長野県（H7～H28，H30～R1），滋賀県（H29）

（単位：人口10万人当たり人）

	H11 (1998)	H21 (2008)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R5 (2023) 【目標】
男女計 (全国)	104.3	84.4	78.0	76.1	73.6	71.6	70.0 [▲17.1%] (▲32.9%)	—
男女計 (広島県)	106.3	78.1	72.0	73.1	70.3	69.8	67.1 [▲14.1%] (▲36.9%)	58.0
男	147.5	103.5	93.5	90.7	93.5	87.1	82.0 [▲20.8%] (▲44.4%)	—
女	70.5	55.2	54.7	51.5	54.7	54.1	53.2 [▲3.6%] (▲24.5%)	—

【出典】国立がん研究センターがん対策情報センター

注：（ ）はH11年，[]はH21年と比較した場合の増減割合

- 平成30年度からスタートの第3次広島県がん対策推進計画においては、「遅くとも第4次計画期間内」(R6～R11)に、がんの死亡率（人口10万人当たりの死亡者数）全国1位」を目標とし、令和元年には、がんの死亡率65.3人を目指していたが、実績は67.1人と目標を下回る結果となった。
- 前年の数値より減少しており、長期的な傾向としては、全国平均を上回る率で着実に減少している。

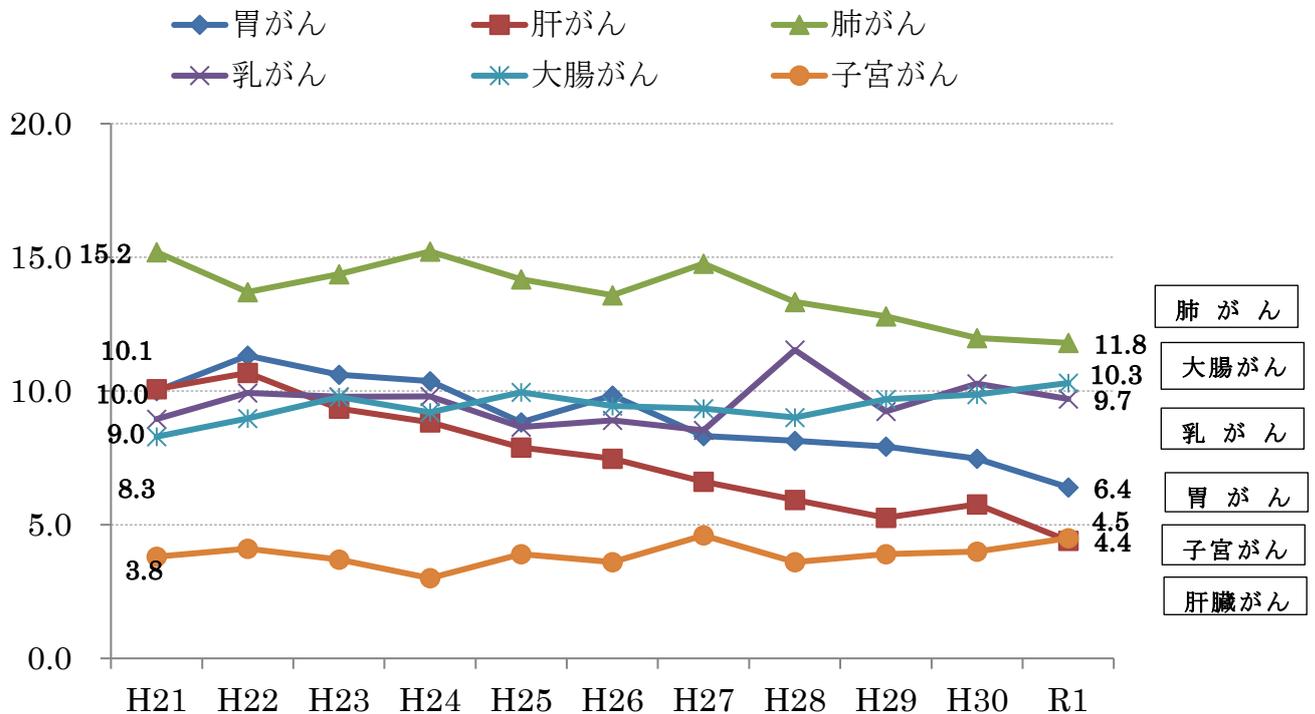
◇ 全国及び本県の主な部位別の状況

1 令和元年のがんの死亡率

(単位：人口10万人当たり人)

区分	胃がん	大腸がん	肺がん	子宮がん	乳がん	肝臓がん
全国 (増減率 H21→R1)	7.2 (▲39.0%)	9.8 (▲3.4%)	12.5 (▲16.1%)	5.1 (21.4%)	10.6 (▲0.3%)	4.0 (▲49.6%)
広島県 (増減率 H21→R1) (全国順位 H30→R1)	6.4 (▲36.0%) 19位⇒9位	10.3 (24.1%) 25位⇒34位	11.8 (▲22.3%) 12位⇒18位	4.5 (18.4%) 8位⇒12位	9.7 (8.4%) 23位⇒10位	4.4 (▲56.3%) 47位⇒34位

2 広島県のがんの死亡率の部位別の推移 (H21～R1)



・平成21年から令和元年までの推移をみると、10年間で「肺がん」は15.2人が11.8人、「肝臓がん」は10.1人が4.4人、「胃がん」は10.0人が6.4人となり、いずれも減少傾向にあるが、これら以外の部位は概ね横ばいとなっている。